記者発表資料

平成２１年２月１６日
国土交通省東北地方整備局

平成20年度「手づくり郷土(ふるさと)賞」に
土木遺産「野蒜築港(のびるちっこう)」を活用した地域活動が選ばれました!!

地域づくりに取組む活動団体等の創意・工夫による、優れた地域活動を表彰する「手づくり郷土賞」は、今年度で２３回目の開催となる国土交通大臣表彰制度です。（別添資料１参照）

今年度は、全国から３１件の応募があり、東北地域からは**『「野蒜築港跡」を活用した地域活動』（東松島市教育委員会及び野蒜築港ファンクラブによる共同応募）**が選ばれました。

これは、明治初期に我が国で最初に建設された近代的洋式港湾施設の保全・活用などの取り組みが全国的に高く評価されたものです。

また、今回の選定に伴う認定証伝達式は、**平成２１年２月２５日（水）**に、行う予定です。

東北地方での選定箇所

【一般部門】地域の魅力を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果が対象。

応募件名	「野蒜築港跡」を活用した地域活動　（別添資料２参照）
応募団体	東松島市教育委員会 野蒜築港ファンクラブ

【認定証伝達式】

・日　時：平成２１年２月２５日（水）１０：００～
・場　所：野蒜築港資料室（新町コミュニティセンター２Ｆ）（別添資料３参照）
・住　所：宮城県東松島市野蒜字下沼１

※当発表は東北版であり、国土交通本省においては全国版の記者発表をしております。
※伝達式終了後は野蒜築港跡地の現地視察を予定しております。

発表記者会：宮城県政記者会・東北電力記者会・東北専門記者会・石巻市記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　　代表　０２２－２２５－２１７１
企画部　環境調整官　大山　英郎（内線３１１４）
企画課長　岩﨑　等　（内線３１５１）

資 料 1

平成２０年度「手づくり郷土(ふるさと)賞」の概要

手づくり郷土賞とは

「手づくり郷土賞」は、地域の魅力や個性を創出している、良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘・評価し、「手づくり郷土賞」として表彰することにより、好事例を広く紹介し、地域の個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組に資することを目的として、昭和６１年度に創設された国土交通大臣表彰制度です。

『 部　門 』

『一般部門』：地域の魅力を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果が対象。

『大賞部門』：これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む優れた地域活動が一体となった成果が対象。

選定について

「手づくり郷土賞」は、「手づくり郷土賞選定委員会」の審査を経て選定されております。

「手づくり郷土賞」選定委員会

委員長	西村　幸夫	東京大学教授
副委員長	酒井　孝	(社)雪センター理事長
委員	大村　哲夫	(財)港湾空間高度化環境研究センター理事長
	金安　岩男	慶應義塾大学教授
	田村　美幸	公共の色彩を考える会会長
	中村　良夫	東京工業大学名誉教授
	藤吉　洋一郎	大妻女子大学教授
	藤原　まり子	(株)博報堂生活総合研究所客員研究員
	大口　清一	国土交通省総合政策局長

平成20年度受賞件数

今年度は、全国各地から一般部門２７件、大賞部門４件の応募があり、**一般部門１３件（東北１件）**、**大賞部門２件**が選定されています。

資 料 2

《一般部門》　東松島市教育委員会、野蒜築港ファンクラブ

「野蒜築港跡（のびるちっこうあと）」を活用した地域活動

野蒜築港とは

野蒜築港は、明治政府の東北開発の最重要拠点として、現在の宮城県東松島市から石巻市一帯に計画され、国家事業として行われた日本最初（明治 11 年～）の近代的洋式港湾建設事業です。

初代内務卿の大久保利通※1により発案、推進され、適地選定と設計にはオランダ人内務省長工師（技師長）ファン・ドールン※2があたりました。

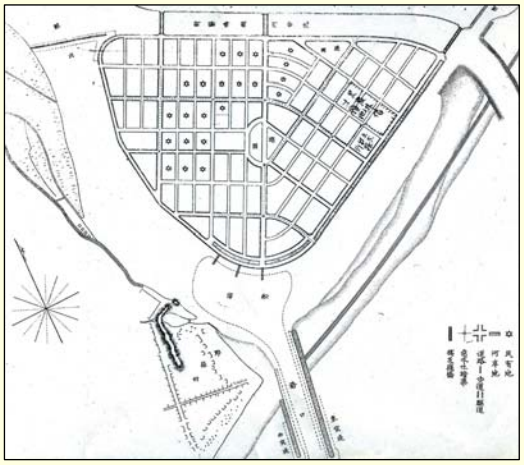
※1　大久保利通（1831～1878）

鹿児島県生まれの明治初期を代表する政治家。版籍奉還や廃藩置県を推進し、明治政府の基礎を固める。1873 年（明治 6 年）、内務卿に就任し、殖産興業の推進等日本の近代化に向けた重要施策を実行。

※2　ファン・ドールン（1837～1906）

オランダ生まれの土木技術者であり、明治政府の招きにより 1872（明治 5）年 2 月に来日。政府の土木寮の長工師として雇われ、日本各地の川の改修や港の建設に貢献。

1878（明治 11）年には、「安積疏水」（福島県猪苗代湖から取水し、福島県郡山市周辺の安積原野への供給を目的とする。）開削の為の水路コースの調査、立案を行う。





左：新市街地之図（宮城県公文書館所蔵）
右：陸前国桃生郡野蒜港近傍測量明細絵図（仙台市民図書館・東北大学付属図書館所蔵）

西暦（元号）	月	主な出来事
1874（明治 7）	5～6	内務卿大久保利通「殖産興業に関する意見書」提出
1876（明治 9）	6	大久保利通、明治天皇東北巡幸に先発し、石巻地方視察
1877（明治10）	2	ファン・ドールン報告（野蒜に築港）
1878（明治11）	6	北上運河開削開始
	10	北上川分疏起工式及び石井閘門築造開始
1879（明治12）	7	鳴瀬川河口に東西突堤築造開始
	11	新鳴瀬川掘削開始
1880（明治13）	2	ファン・ドールン帰国
1881（明治14）	1	北上運河・石井閘門完成
1882（明治15）	10	野蒜港突堤落成式
	12	新鳴瀬川港口事業完成
1884（明治17）	2	東名運河竣工
	9	台風により東突堤の1/3が流失し、港内が埋塞する

築港跡地は今・・・

明治 15 年に鳴瀬川の河口に突堤が完成し利用を開始しますが、外港の波が荒く大型船の停泊が困難だったことや予想を超える漂砂で水深が保持出来ないことが判明し、明治 17 年 9 月の台風で突堤の一部が壊されたことを契機に、外港工事に未着手のまま野蒜築港事業は中止されました。

築港跡地には、当時の土木技術を示す貴重な近代的洋式港湾施設（突堤跡や下水道、煉瓦橋台等）が残されており、その歴史的な価値が認められ、平成 12 年に土木学会選奨土木遺産※３に認定されています。

※３　土木学会選奨土木遺産

社団法人土木学会により実施される顕彰制度。身近にある土木構造物の遺産的価値を広く社会にアピールし、社会的遺産としての価値を地域が再認識することでまちづくり等への活用を促す。





悪水吐暗渠（あくすいばきあんきょ）：
市街地跡から発見された下水道跡の一部。
（現在は保存の為、埋め戻されている。）



突堤跡：
鳴瀬川河口部に建設された野蒜港内港部への港口として、海中に突き出し築造された東西二条の防波堤。



下の橋（しものはし）：
市街地を往来するために架けられた木橋
（現在は、煉瓦橋台のみを残す。）

先人の足跡を未来へ

「野蒜築港ファンクラブ」は、「野蒜築港史跡」の保全と活用に加え、次世代を担う子ども達への継承を目的として、平成１２年に設立しました。自分たちの地域遺産「野蒜築港」への理解向上や興味の醸成を図り、地域が誇りを持って推奨する「野蒜築港史跡」を核とした地域づくりを進める為、見学者への案内ガイドや市内各小学校への出前講座等を積極的に実施しています。



地元小学生を対象とした総合学習の実施



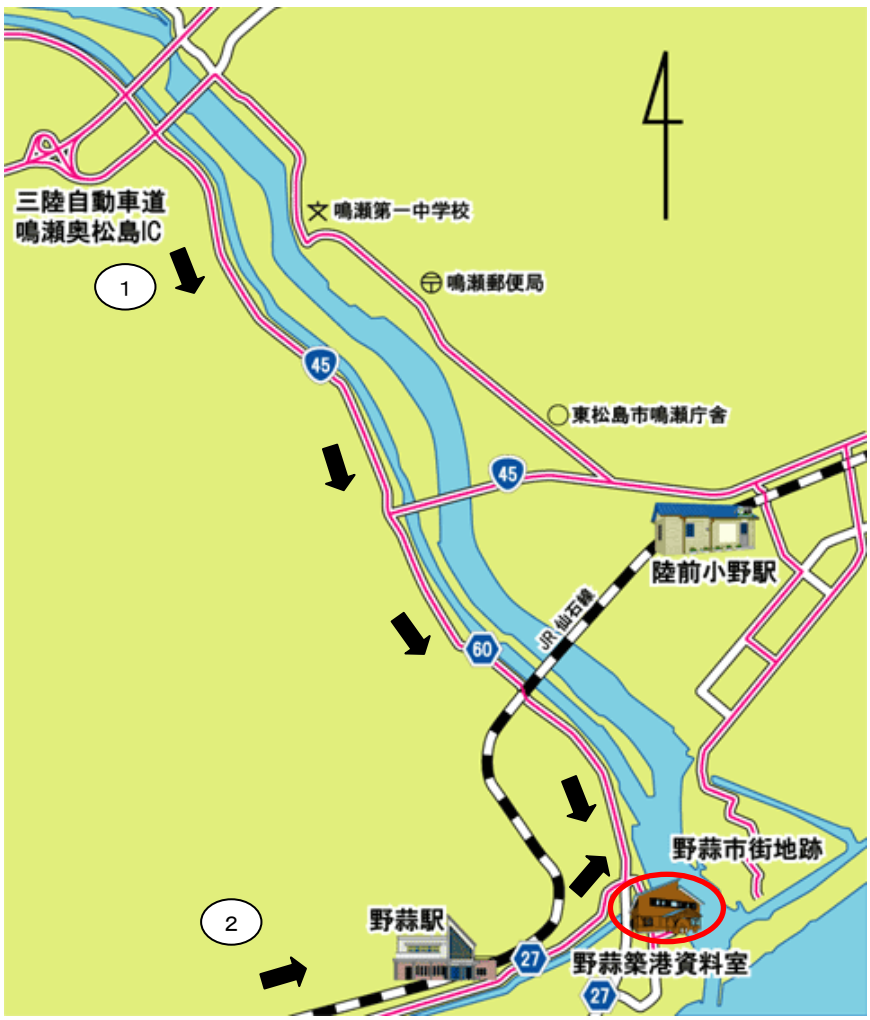
当時の築港計画や時代背景等を紙芝居で紹介

資 料 3

【開催案内図】

野蒜築港資料室（新町コミュニティセンター2F）

住所　〒981-041宮城県東松島市野蒜字下沼1
電話　0225-88-4624



所要時間目安

＜車＞

①三陸自動車道鳴瀬奥松島IC → 野蒜築港資料室 約10分（約5km）

※駐車場は、**5～6台**のみ駐車可能です。お車の方は、お早めにお越しください。

＜鉄道＞

②JR仙石線

仙台駅（8:21発） → 野蒜駅（9:21着） → 野蒜築港資料室　徒歩約20分（約1.5km）
タクシー約3分